

# 地方創生推進交付金事業の事前評価・意見

資料 5

| No.1 | 事業の名称   | とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略 |
|------|---|----------------------------|
| 評価   | 意見  |                            |
| B    | 各取り組みのKPIは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け実績値が伸び悩んだことは、やむを得ないと捉えられる。中小企業の多くは、その影響を受けていることは事実であるが、コロナ禍での支援の形や在り方が見えてきていると思われるので、今後の方向性をしっかり検討し進めていく必要がある。  |                            |
| B    | コロナ禍の中、事業の変更・中止をせざるを得なかった状況において、目標値に届かなくとも一定の実績を上げられたことに敬意を表します。ただ、このようなパンデミックあるいは過去に例を見ない危機的状況は今後も発生の可能性があり、行政であるからこそ事業のリスク管理(もう一つの選択肢をもつこと)は強く求められるものだと思います。特に、「ブランド創出」においては、知名度・訪問意向・購買意向の向上のためのデータ分析が必要ではないでしょうか。「販路」という意味では、web販売へのウエイトを高めていくこと、顧客(観光客)の立場から考える情報接触度を高めていくことが不可欠ではないでしょうか。 |                            |
| B    | 2020年度のKPIの実績値は、4つの指標のうち3つで目標に届いていない。ただし、COVID-19拡大の影響が推察されること、前年度と同水準の実績があがっている事業もあること、を考慮してB評価とした。<br>なお、中小企業支援関係の事業について、COVID-19の影響を受けている業種や企業への支援は急務であり、その実態把握や、支援事業の周知・利用促進のための努力が必要と思われる。   |                            |
| B    | 本事業のKPIは、実績値が伸びていない事業が多い。しかし、コロナ禍という環境でありながら、本事業により販路拡大に効果があったと回答した事業者の割合は目標値以上見られる。よって、本事業については、一定の効果が出ていると考えられる。今後も、地域産業の成長のため、新製品の開発や販路拡大支援事業に注力してほしい。   |                            |
| B    | 本事業はKPIの達成に一定程度有効であったと思われる。<br>「とくしま地域資源活用支援事業」については、外国語版パンフレットの作成を計画通り行ったとしても、外国人観光客が動いておらず、R2年度現在で有効活用されたとは考えにくい。<br>イベント等はコロナによって実施できず、思うように事業を推進できなかった部分があると思うが、その他の施策においても「コロナ」を理由にしている側面はないだろうか。  |                            |
| B    | コロナ禍のため未達成のKPIが多いが努力は認められる。ただし「地域資源活用高付加価値商品数(累計)」では、コロナ禍で外国人旅行客が来県できないにも関わらず、県内の観光施設や宿泊施設にパンフレットを配布することに効果があるのか疑問を感じる。パンフレット内容を県や市町村、各施設のホームページに掲載したり、Youtubeや様々なSNSで広報活動するなどして、コロナ終息後の旅行計画の参考資料にしてもらうなどの工夫が必要だと思われる。根拠資料がないので評価シートの記述内容を確認することができない。  |                            |
| B    | 新型コロナウイルスの影響もあり、販路拡大以外のKPIが未達成であることからB評価とした。ただし、コロナ禍は1年以上も続いておりコロナ禍の中でも実施できるような事業を展開して欲しかった。  |                            |
| B    |   |                            |

A：本事業がKPI達成に有効であった    B：一定程度有効であった    C：有効でなかった

## 地方創生推進交付金事業の事前評価・意見

| No.2 | 事業の名称  | 四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略 |
|------|--|---|
| 評価   | 意見   |   |
| B    | 本事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響をまろに受け、外国人観光客の激減などによる事業縮小や中止などになったことはやむを得ない。しかし、Webサイトのリニューアルのための取り組みは実施されている。Webサイトへの取り組みはまさしくコロナ禍やアフターコロナの時代に必要な事業であるため、更に斬新な事業展開に期待する。   |   |
| B    |  |   |
| C    | インバウンドを獲得することは重要ですが、それに依存する施策は転換が必要だと思います。また、先日発表された宿泊旅行統計では、県内延べ宿泊者数は全国最下位となり(日本人延べ宿泊者数は最下位から2番目ですが)、やはり日本人旅行者特に近県・関西エリアからの誘客に注力すべきではないでしょうか。関西キー局の朝や夕方生活情報番組へのパブリシティ戦略を強化されてはいかがでしょうか。   |   |
| C    | 2020年度KPIの実績値は、2つの指標ともに目標に届いていない。COVID-19拡大の影響を受けたことを考慮しつつも、下記の理由により、B以上の評価は難しいと判断した。<br>水都・とくしま魅力発信事業について、COVID-19拡大が目標達成に至らなかった原因として分析がなされている。しかし、KPIは地域ブランド調査における「順位」である。どの地域も状況・条件はほぼ同じと想定すれば、過去4か年で最も低い「順位」であった原因は、COVID-19以外にある可能性がある。   |   |
| C    | 本事業のKPIの結果は、事業内容の特性上コロナ禍による影響を受けざるを得なかった。特に外国人宿泊者数については低い実績値となった。しかし、このような状況下でありながら、SNS等を通じて積極的な情報発信を行い努力が見られるが、目標は達成できなかった。今後は、ポストコロナ社会の新しい観光スタイルに対応した観光コンテンツを整備し、戦略的に情報発信を続けてほしい。  |   |
| C    | KPIが計画期間を通してほぼ未達であり、PDCAサイクルとしてうまく機能していなかったことが考えられる。<br>コロナについては本市に限ったことではなく、全国でも同様に影響があったため、本事業において目標達成に至らなかった理由としてはふさわしくないのでは。また、KPI達成のためには様々な要素が関わるため本事業の達成だけでは難しい側面もある。<br>「地域ブランド調査」の魅力度における順位については、例えば全国で魅力度の順位が継続して好転している都市の施策等を分析・参考にすることも必要ではないだろうか。また、WEBサイト等は基本的には「本市を知っている、かつ興味がある人」がアクセスすると考えられるため、その前段階である「認知度」向上にも注力する必要があるように思う。 |   |
| C    | 設定されたKPIを達成できていない。「地域ブランド調査」の魅力度における順位が下がっており、コロナ禍の影響をその理由としているが、コロナ禍の影響は徳島県地域だけではないので理由とならないと思われる。根拠資料がないので確認できない。徳島県地域の順位が下がっているということは、逆に言えばコロナ禍であっても魅力を向上させている他県・他地域の取り組みがあることを意味するから、それらを調査して参考にする必要があるのではないか。   |   |
| C    | 新型コロナウイルスの影響で外国人宿泊者数については達成は難しかったと考えられる。「地域ブランド調査」の魅力度における順位については他の市町村についても条件は同じであり昨年よりも順位を上げてほしかったことからC評価とした。   |   |

A：本事業がKPI達成に有効であった    B：一定程度有効であった    C：有効でなかった

## 地方創生推進交付金事業の事前評価・意見

| No.3 | 事業の名称   | 徳島東部地域におけるDMO推進 |
|------|---|-----------------|
| 評価   | 意見  |                 |
| A    | <p>宿泊者数や観光入込客数の減少は、コロナ禍において避けられないところであるが、本事業はそれを逆手に取るように観光コンテンツ造成数が目標の4倍になっている。SNS配信や新しい観光スタイルとして対応できている。</p>   |                 |
| B    | <p>DMOの役割は大きく、官民一体となった観光推進施策や創業支援は重要であることは間違いありません。ただ、観光コンテンツの造成を含めてその効果が検証しづらいという側面もあります。WITHコロナの時代の消費者心理として、「高品質・郊外・抗コロナ」という3つの「コウ」が高まっています。観光商品についても例外ではありません。観光人材の育成は急務ですが、具体的な取組みが書かれていないのが残念です。</p> |                 |
| B    | <p>2020年度KPIの実績値は、2つの指標ともに目標に届いていない。ただし、COVID-19拡大の影響が推察されること、事業における観光コンテンツ造成等に進展がみられることから、B評価とした。<br/>なお、今後の事業展開に関して、ウィズコロナへの対応が急務であるが、ご指摘の通り、アフターコロナを見据えた準備や投資も重要ではないかと考えられる。</p>                       |                 |
| B    | <p>本事業のKPI実績値は、コロナ禍の影響を受けて、宿泊者数・観光入込客数ともに低迷した。しかし、DMOを中心に広域的な観光地域づくりと情報発信に取り組んでいる。今後はコロナ禍におけるニーズに合った新しい観光事業を開発し、また現在の観光コンテンツをブラッシュアップし、観光需要を回復させる必要があると考えられる。</p>   |                 |
| B    | <p>KPIは未達であるものの、コンテンツ造成数等、今後の推進に生きる事業もあったと思われる。ただし、コロナ前の2018年より目標値を大幅に下回っていることを念頭に置き、今後の方向性をより具体化していく必要がある。アフターコロナを見据えた種まきは他の地域でも始まっていると考えられるため、本市も対応を急がなければならない。</p>                                     |                 |
| B    | <p>ポストコロナを見て、とくにアジア圏からの個人旅行者をターゲットにした情報提供に集中しましょう。(例:公共交通利用法, 貸自転車など)</p>   |                 |
| C    | <p>新型コロナウイルスの影響下では仕方がないが目標達成とはならなかったことからC評価とした。</p>   |                 |
| —    | <p>2つのKPIが設定されているが、いずれもコロナ禍の影響を強く受けると考えられるため、令和2年度は評価できない。</p>  |                 |

A：本事業がKPI達成に有効であった    B：一定程度有効であった    C：有効でなかった

## 地方創生推進交付金事業の事前評価・意見

| No.4 | 事業の名称  | 労働力人口の確保プロジェクト |
|------|--|----------------|
| 評価   | 意見   |                |
| B    | 新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施を中止した事業が見られたが、中でも若者や女性の就職に繋がる支援の実績が目標を達成することが出来た。しかし、働き方改革の制度整備後の表彰に繋がらなかったのは、残念である。今後の啓発と奨励金交付など充実を望む。                               |                |
| B    | 「女性活躍」「若者のキャリア支援」に限らず、徳島市はディーセントワークとダイバーシティの先進市としてアピールすることも、徳島市の「個性」としては有効であると考えます。  |                |
| B    | 2020年度のKPIの実績値は、3つの指標のうち2つで目標に届いていないが、COVID-19拡大の影響を考慮してB評価とした。なお、各事業におけるセミナーや講座の実施は、ウィズコロナへの対応が急務と思われる。   |                |
| B    | 本事業のKPIは、コロナ禍により各種セミナーの参加者数が低迷したものの、新規就業者数とワークライフバランスの取組企業数については一定の効果が見られた。今後は人材確保はもちろん、若者と女性のキャリア形成や支援、ポストコロナ社会の多様な働き方についての企業支援の推進が必要と考えられる。            |                |
| B    | KPIは目標値を下回っているものもあるが、取組は見直しを含めて推進できているため、一定の効果があったと考える。一方で、事業の多くでセミナーや対面での施策であるため、コロナ禍でも変わらず推進できるような方法を検討する必要がある。  |                |
| B    | 「ワークライフバランスの取組み企業数」のみが達成できているが、もともとそのような取組みをする下地があった企業数が多かった可能性が高かったのではないかと。また参加企業は毎年同じなのか、異なるのか不明であり、プロジェクトが進んでいるのかどうか分からない。根拠資料がないので達成理由・未達成理由を確認できない。 |                |
| B    | ワークライフバランスの取組企業数以外のKPIは達成されていないが、新型コロナウイルスの影響が大きいと判断してB評価とした。  |                |
| B    |  |                |

A：本事業がKPI達成に有効であった    B：一定程度有効であった    C：有効でなかった

## 地方創生推進交付金事業の事前評価・意見

| No.5 | 事業の名称  | 人が集い新たな価値が生まれるにぎわいとくしま推進事業 |
|------|--|----------------------------|
| 評価   | 意見   |                            |
| B    | 新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業の一部中止などから、まちの賑わい作り事業としてKPIは未達であり効果はCとなってはいるが、徳島市として今後力を入れていかなければならない事業であると思われる。今後の取り組みとして更に拡充して事業実施を計画していることは、期待できる。                        |                            |
| B    | 2020年度のKPIの実績値は、2つの指標のうち1つが目標値を越えており、B評価とした。<br>なお、今後の移住促進事業の展開に関して、ウィズコロナへの対応が急務と思われるが、同時に、アフターコロナを見据えた準備や広報活動も重要ではないかと考えられる。                                   |                            |
| B    | コロナを契機に、ワーケーションや数拠点生活などへの関心が高まっていることをチャンスととらえ、移住だけでなく交流人口の増加につながるよう、視点を変えて事業を進めていくことも今後は必要。  |                            |
| B    | 移住交流人口創出数は未達であったが、まちづくりに携わった人の数は達成していることからB評価とした。  |                            |
| C    | 本事業のKPIは、コロナ禍の影響を受けて、移住交流人口創出数では厳しい実績値となったものの、まちづくりに携わった人の数は達成している。今後は、ポストコロナ社会の新しいまちづくりを目指し、人材の育成はもちろん、まちの魅力を活かした移住交流人口創出に取り組んでほしい。                             |                            |
| C    |  |                            |
| —    | 実績値が2年連続でしめされていないこと、コロナ禍で予定していた事業が実施できなかったことなどから、「評価できない」という意味で「—」としています。ただ、リノベーションとキーワードとしたまちづくりは、とても良い視点ですので是非継続と拡充を望みます。                                      |                            |
| —    | 2つのKPIが設定されているが、いずれもコロナ禍の影響を強く受けると考えられるため、令和2年度は評価できない。<br>まちづくりに携わった人の数を講演会やワークショップに参加した人数として評価しているが、まちづくりに携わる人がどのように定義されているのか分からない。根拠資料がないので達成理由・未達成理由を判断できない。 |                            |

A：本事業がKPI達成に有効であった    B：一定程度有効であった    C：有効でなかった